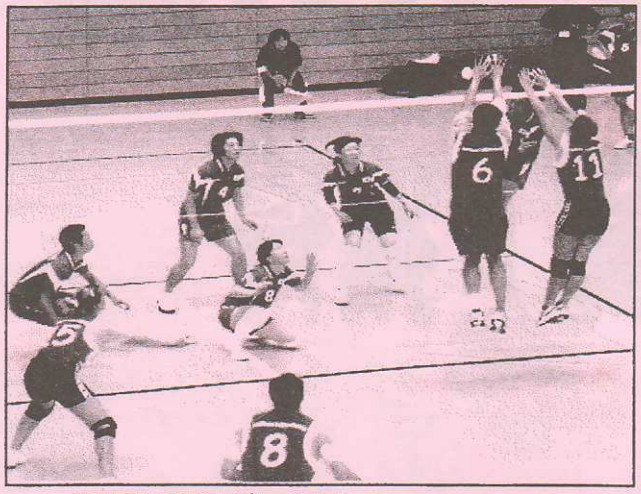
インディアカ
さいたま
平成16年 9月 吉日 発行
号外
発行人
埼玉県インディアカ協会 会長 秋谷昭治
発 行 SIA広報部 巻島 伊藤 田口 大野
深田 鈴木 鶴見 浅野 鶴巻 橋本

第２回 インディアカ 世界選手権大会

プラスワン〔銀〕獲得

期日：平成１６年8月２２日～２４日　　会場 ： 茨城県つくば市「つくばカピオ」アリーナー

銀メタルを胸に喜びの選手の皆さんです



高さにも負けないプレーでした

スタンドの応援者を感動させてくれました

第２回　世界インディアカ大会に参加して

男女混合の部　プラスワン　長谷川知子

今回の目標は、前回参加したW杯（３位）よりも上位に入賞する事。そして対戦国の高さに負けない拾ってつなぐ粘りのインディアカをする事でした。
その目標を果たし、ファイナルに進むことが出来たのですが、届きませんでした。ネットの高さや５人制の動きなど、理解しているつもりでしたが、やはり日本のルールとの違いが大事なところでのミスにつながってしまった様に思います。 ただ、国際大会ならではの雰囲気の中で楽しくプレーが出来、海外の選手や、沢山のインディアカ仲間と交流がもてることは金メダルに値する貴重な経験となりました。
最後に、会場まで足を運び声がかれる程、応援をしてくださった皆様にチーム一同心から感謝しています。
ありがとうございました
※
予選に応援に来て下さった方々が、ファイナルにも足を運んでくれて５人制インディアカの楽しさや、国際大会の雰囲気を気に入っくれた気がしてとても嬉しかったです。
２年後も、参加できるようがんばります！！！

対戦成績表

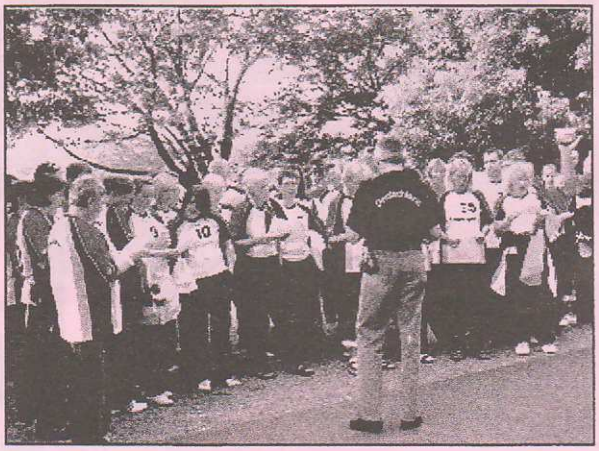
予選の部　ＭＩＸＥｄ（8月22日）

日　本		得失		対戦国
プラスワン（所沢市）	1	15	25	ルクセンブルグ
		25	14	luxembourd
		25	10	
	2	25	23	エストニア
		25	21	Estonia
	3	25	23	ドイツ
		26	24	Gaymany
	4	25	14	スイス
		25	13	Switzerland

決勝の部　ＭＩＸＥｄ（8月24日）

日　本		得失		対戦国
プラスワン		24	26	エストニア
		26	28	Estonia

交流会も盛んに行われました



一生懸命戦ってくれました。

第２回　世界インディアカ大会に参加して

シニア女子の部　フレンドシップ　小野寺幸子

予選を勝ち抜いての世界大会、経験者６名、新人４名、１０名で参加しました。
日本での試合は、最初で最後、目標は３位でしたが残念ながらメダルは取れませんでした。
条件の悪い中（身長とネットの高さ、年齢、５人制）一生懸命戦いました。悔しさは残りましたが大会に出られた事に誇りと自信を持つことが出来ました。
これからも老体にムチ打ちながらインディアカを楽しく続けていきたいと思います。
最後に応援ありがとうございました。インディアカをやってよかったです。

会場を沸かせてくれました。

対戦成績表

予選の部　seniors Women（8月22日）

日本		得	失	対戦国
フレンドシップ（川口市）	1	5	25	ドイツ
		15	25	Gaymany
	2	6	25	エストニア
		15	25	Estonia
	3	25	22	スイス
		17	25	Switzerland
		9	15	

ラリーの応酬で見応えのあるゲームの展開でした

聞いたまま、観たまま

牛久市　A子さん
地元スタッフとして参加した。観るよりはプレーをしていた方が楽しいのだが、裏方もけっこう今回は楽しい。

つくば市　B男さん
家内が通訳担当インディアカに初めて関与したが楽しそう。これなら子供とも一緒に遊べそう。

栃木市　C男さん
インディアカ15年　今回、国際審判取得ルールにとまどったがすぐに慣れた、外国勢は混合の場合女性がリード、男性がアタック、フォームが素晴らしく美しい。

着物姿がとてもお似合いですよ

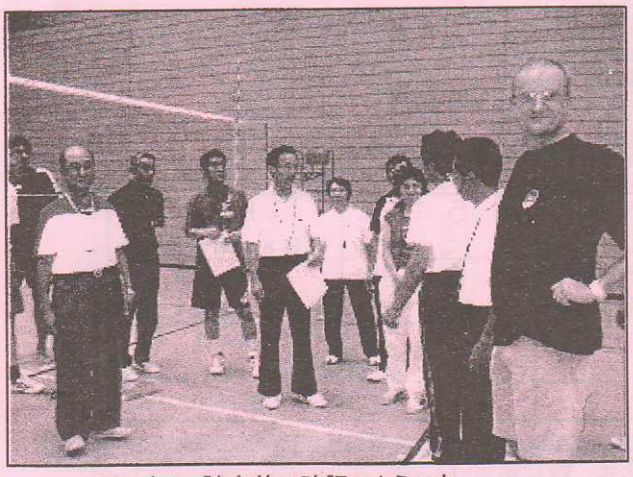
戦い後の楽しいひと時です

交歓会も盛んに行われました。

埼玉初の国際審判員が誕生しました

阪口　　進（埼玉県インディアカ協会理事長）
佐伯加寿美（埼玉県指導審判員）

佐伯さん　副審の姿も似合ってますよ



阪口さん　試合前の確認のようです

国際審判員を受験して

競技部長　佐伯加寿美

世界大会（８月２２日～２４日）に先立ち２０日に国際審判員の講習会及び試験が筑波で開かれ、受験してきました。
埼玉県からは坂口理事長と二人、全国から合わせて１０名、そして外国から８名、計１８名の参加者で行われました。
他に更新者が１２名いらしたようです。
午前中の講義は、全て英語で進められました。もちろん通訳はつきますが午後は実技、そして夕方筆記テスト、これも全て英語でしたが、全員合格。ということで、２１日は交流大会の審判。そしていよいよ本番の２２日から２４日まで審判業務を担当しました。
今回感じたことの一つに、外国人の「フェアプレー」があります。　タッチネット、ワンタッチは自分から審判に申告していました。そして申告した選手に相手チームはネットの下から手を差し伸べ、タッチしていました。こういう姿勢は日本でも取り入れたいと感じました。また、審判は選手が試合を楽しむためにゲームを取り仕切る人だということ。これも肌で感じました。外国によってハンドシグナルは様々でしたが、いま何が起こったのか？アウトなのか？インなのか？そして審判はしっかりとした判断をすること。形でなく「心」。そういった姿勢を学びました。
試合が終わると選手はレフリーにも敬意を示してくれます。男子の試合をした時にチームから「ナイスレフリー」と言われた事は私の心の宝物になったと思います。
埼玉県からもたくさんの応援の方がかけつけてくださり、本当にありがとうございました。

入賞された日本選手団の皆さん、関係者の皆様おめでとうございました。